

学習教育改革についての保護者の意識調査報告書

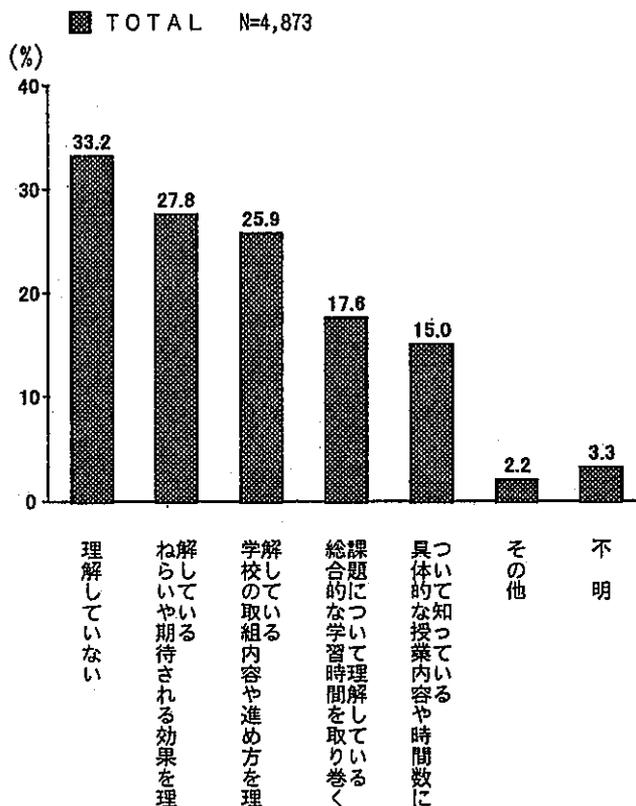
(平成14年9月 社団法人日本PTA全国協議会)

○調査時期 平成14年5月22日～7月19日
 ○調査対象 小学生・中学生の保護者である全国のPTA会員4,873人

総合的な学習の時間のねらいや取り組みへの理解度

問8 本年度から本格実施される総合的な学習の時間について、そのねらいや期待される効果、さらにあなたのお子さんを通う学校の取り組みについて理解していますか。(○はいくつでも)

表頭：問8 総合学習時間についてのねらい・効果・理解度 (M..A)



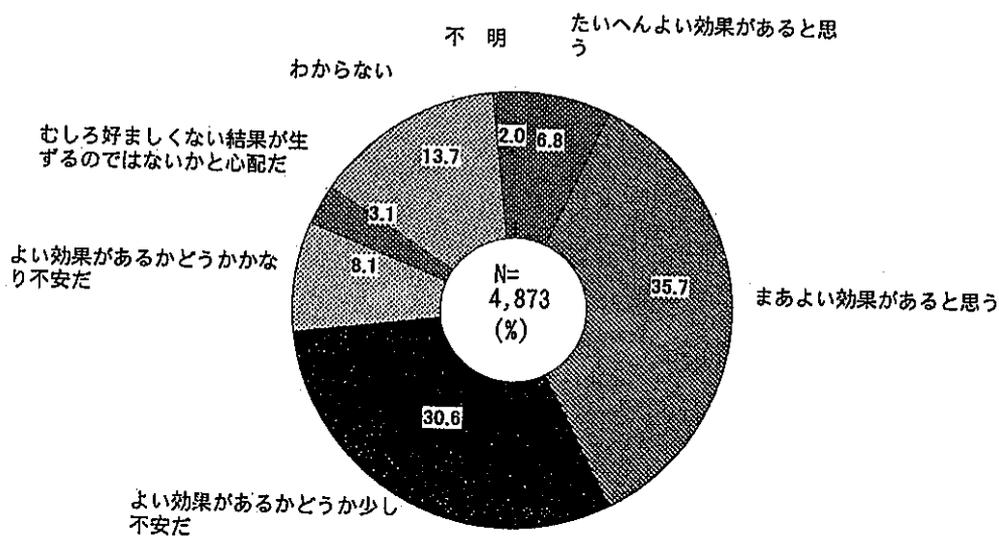
総合的な学習の時間について、そのねらいや期待される効果を「理解していない」(33.2%)という人は全体の約3分の1である。理解度が最も高いのは「ねらいや期待される効果を理解している」(27.8%)と「学校の取組内容や進め方を理解している」(25.9%)で、いずれも全体の約4分の1の人に理解されている。

総合的な学習の時間への印象

問9 総合的な学習の時間について、どのような印象をもたれていますか。(○は1つだけ)

総合的な学習時間については、「まあよい効果があると思う」(35.7%)とする人が最も多く、これに「たいへんよい効果があると思う」(6.8%)を合わせると、好意的な印象を持っている割合は42.5%である。一方、「よい効果があるかどうか少し不安だ」とする人も30.6%で2位を占めており、これに「よい効果があるかどうかかなり不安だ」(8.1%)と「むしろ好ましくない効果が生ずるのではないかと心配だ」(3.1%)を合わせると、批判的な印象を持っている割合は41.8%となっており、好印象を持っている人と批判的な印象を持っている人がほぼ半々となっている。

表頭：問9 総合学習時間への印象
BD : TOTAL



総合的な学習の時間が効果を発揮するために必要なこと

問11 総合的な学習の時間が効果を発揮するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(○はいくつでも)

総合的な学習の時間が効果を発揮するために必要なこととしては、「学校外の講師や人材を活用できるようにする」(58.4%)への回答が最も多い。次いで「担当職員すべてが役割を理解し、学校全体で推進する」(50.5%)となっているが、そのほかの項目もいずれも3~4割前後で続いており、効果発揮のために必要とされる内容が多岐に渡っている。

表頭：問11 総合学習時間の効果発揮のため必要なこと (M. A)

